

<< 費用対効果分析説明資料 >>

事業名	馬淵川流域関連公共下水道事業	地区名等	八戸市
-----	----------------	------	-----

【費用対効果の算定内容】

1. 費用効果分析概要

下水道事業の費用対効果の分析は、(社)日本下水道協会の「下水道事業における費用効果分析マニュアル(案)」に基づいて行うことになっており、本流域下水道についてもそれによった。

費用効果分析を行うに当たって採用した手法は、各年度毎の建設費用・維持管理費用及び発現効果(便益)を金銭評価した上で、割引率等を用いて現在価値に換算し比較を行う「現在価値比較法」であり、便益算定においては、具体的な下水道効果の算定が可能な代替費用法を採用した。代替費用法とは、下水道整備と同等の効果を得るために、他の手段を用いた場合に必要とする費用を、効果の測定尺度とする方法である。なお、算定基準年については平成 18 年度とし、対象期間を建設開始時期から建設完了後 50 年間の昭和 53 年度～平成 82 年度(93 年間)とした。

2. 費用対効果の算定内容

(1) 下水道事業の費用(C) ～ 流域下水道と流域関連公共下水道の合計 ～

項 目		現在価値換算費用(百万円)
建設費	管渠	48,566
	ポンプ場	-
	用地費	-
	小計	48,566
	流域分担	70,082
建設費 合計		118,648
維持管理費	流域関連公共下水道	2,045
	維持管理費 合計	2,045
費用 合計		120,693

(2) 下水道整備による便益(B) ～ 各市町における便益の合計 ～

下水道事業による効果(便益)として、以下の2項目について下水道の代替となる他の具体的な手段を想定し、それに要する費用を効果(便益)として算出した。

1) 周辺環境の改善

下水道を整備しない場合の悪水路の悪臭解消や景観の改善には水路の覆蓋化等を要するものとし、中小水路の覆蓋化の費用及び清掃費用をもって下水道による生活環境の改善効果(便益)とする。

2) 居住環境の改善

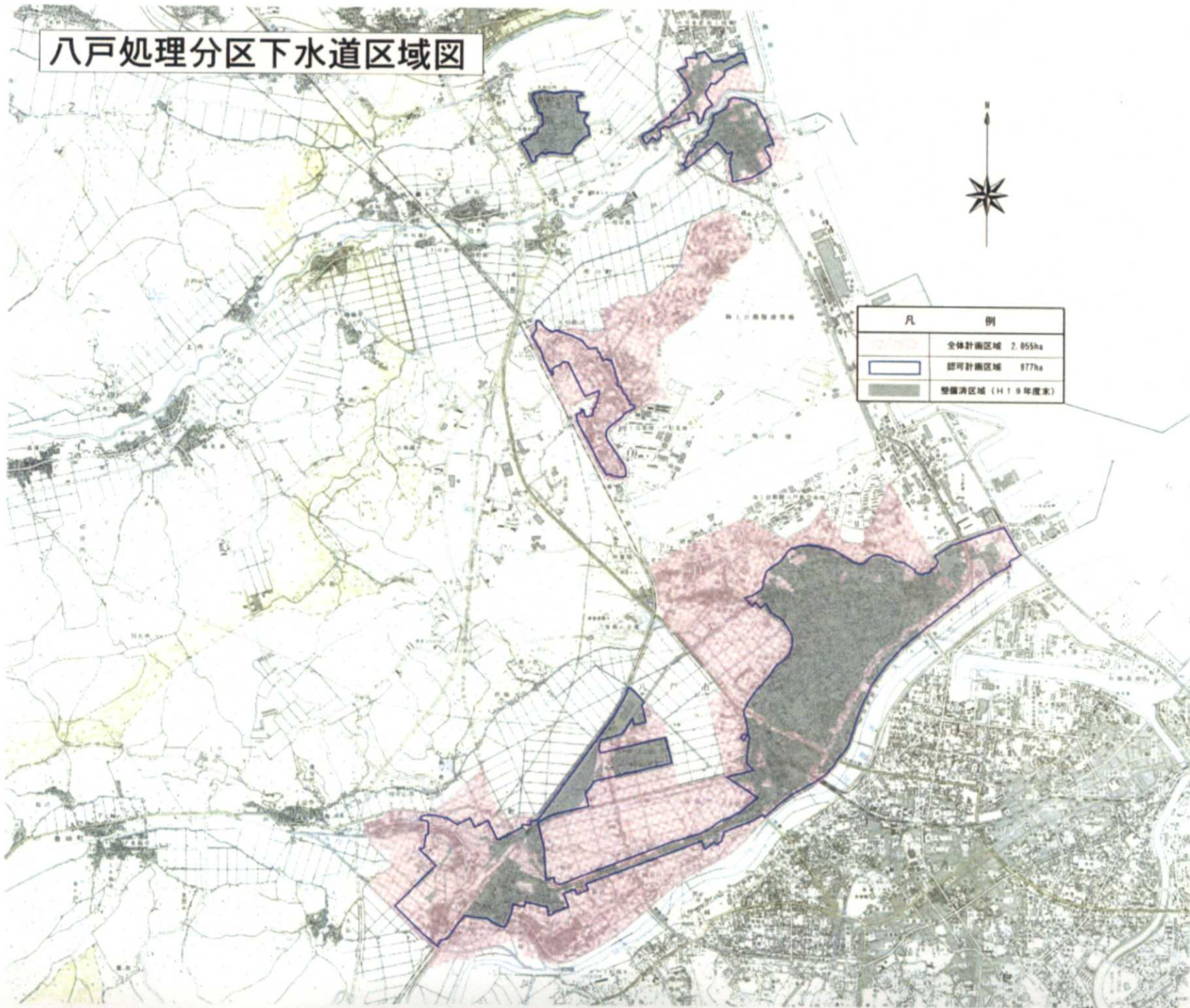
下水道を整備しない場合の各戸の便所の水洗化には合併浄化槽の設置を要するものとし、その設置費用、維持管理費及び汚泥処理費用等をもって、下水道による居住環境の改善効果(便益)とする。

項 目	現在価値換算便益(百万円)
周辺環境の改善効果	95,583
居住環境の改善効果	64,791
便益 合計	160,374

【費用対効果分析の結果】

B / C (再評価時点) = 160,374 百万円 / 120,693 百万円 = 1.33

八戸処理分区下水道区域図



【工事第20号 八戸第九処理分区下水道整備工事】

着工前 平成19年7月26日



管路 平成19年10月18日



完成 平成19年12月22日

